

令和4年度 幼稚園自己評価

1. 幼稚園目標
- 一人一人の幼児が自分なりの力を発揮し、友達とかかわり合いながら生きる力をやしなう
2. 本年度の重点目標
- ・評価に基づく保育改善
- ・生活文化的体験活動、自然体験活動、社会的体験活動の充実
3. 自己評価表 【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

今年度の重点目標	評価項目		取組指標	判定	達成判断基準	判定	総合判定	取組結果・成果	来年度に向けて
評価に基づく保育改善	研究活動	遊びの中で幼児が探究心を培うことが出来る環境の構成を工夫する	4：幼児の発達を理解し、探究心を培うことができる環境を構成し、保育後に振り返り、幼児の実態に応じて改善し、翌日の保育にいかす 3：幼児の発達を理解し、探究心を培うことができる環境を構成し、保育後に振り返りを行い、環境を再構成する 2：幼児の発達を理解し、探究心を培うことができる環境を構成し、保育を実施する 1：一人一人の興味関心に合った環境を構成し、保育を実施する	3.4	4：幼児が教師の構成した環境と関わり遊ぶ中で探究する姿がかなり増加した 3： 〃 探究する姿が増加した 2： 〃 探究する姿が見られた 1： 〃 探究する姿が見られなかった	2.9	A	・幼児の探究する姿について職員間で共通理解を図り、年齢に応じた環境の構成について考えを深めることができた。また、教師間で連携し、目の前の幼児の姿や年齢に応じた環境の構成を行ことにつながった。 ・探究する姿や幼児の好奇心、興味関心をもつ姿、試行する姿に目を向け、環境の構成を工夫した。 ・教師が幼児の探究する姿を深く考えるようになり、これまで見過ごしてきた幼児の探究する姿をよみとることができるようになった。	・引き続き、教師間で連携し、環境の構成を工夫していく。
	保育記録	保育改善に向けた保育記録の方法を見直す	4：ねらいに即した振り返りや一人一人の学びの捉え、教師の関わりを関連付けて自己評価する記録を行う 3：幼児の発達や姿から保育を振り返り、ねらいに即して評価する記録を行う 2：幼児の姿を振り返り、幼児の発達の時期や年齢を意識し反省・評価する記録を行う 1：何をしたかのみを振り返る記録を行う	3	4：記録をもとに振り返り、PDCAサイクルを実践に8割以上で活かすことができた 3： 〃 7割程度活かすことができた 2： 〃 5割程度活かすことができた 1： 〃 5割未満しか活かすことができなかった	2.9	B	・ねらいを意識し、月案、週案、日案等を作成し、保育の振り返りを行い、翌日の保育に活かすことができた。 ・週案等を利用し、日々の保育の振り返り、幼児の姿、ねらいに即した環境の構成や教師の援助について記録を積み重ねてきた。しかし、中には幼児の姿のみの記入になってしまい、ねらいや環境の構成等について振り返っていないものがあった。 ・学年等の振り返りの際にホワイトボードを利用し、写真記録として残すなど、新たな方法を取り入れた。 ・職員全員での「15分振り返りタイム」の実施など、振り返りの質と時間の使い方について模索してきた。 ・保育記録を作成する時間の確保が難しく、振り返りはしていても記録作成に至らない日もあった。	・保育改善に有効な保育記録とはどのようなものか、教師間で検討し、有効な記録の方法を考えていく。
生活文化的体験活動、自然体験活動、社会的体験活動の充実	自然体験	幼児の遊びが充実するように、幼児の年齢や生活経験を考慮して、自然環境を遊びに取り入れる工夫をする	4：ねらいや幼児の姿を基に保育を振り返り、自然環境を遊びに取り入れられるように環境を構成したり改善したりする 3：幼児が自然物に興味をもち、主体的に自然物に関わることができるように季節ごとに環境を見直す 2：幼児の気づきや興味関心を捉え、自然物を話題に取り上げたりコーナーに設置したりする 1：自然と関わる遊びを保育に取り入れる	3.2	4：幼児が自ら積極的に自然物を遊びに取り入れるようになった 3：幼児が自然物を自分たちの遊びに取り入れるようになった 2：幼児が自然の事象や変化に気づき、表現するようになった 1：幼児が自然物をよく見るようになった	3.4	A	・3歳児学級では、砂場の環境の構成を工夫したり、幼児の興味ある環境を戸外に準備したりしたことを通して、幼児自らが自然物を遊びに取り入れる姿につながった。 ・4歳児学級では、保育室内の自然物コーナーを見直した。園庭だけではなくキャンパス内の自然物に関心を広げたり、室内で遊ぶ際に自然物を取り入れて遊んだりする姿につながった。 ・5歳児学級では、自然体験活動と園内の活動のつながりを考慮し、環境の構成を工夫した。自分達の体験を遊びに活かす姿につながった。 ・保護者と連携し野菜栽培に取り組んだことで、野菜の成長に興味を示し関わる幼児が増えた。	・引き続き、幼児の自然体験が充実するように環境の構成を工夫していく。
	自然環境	園庭の自然環境を把握し、自然環境マップを作成する	4：教師間で情報共有し、年齢に応じた環境マップへのかかわり方を模索し、環境を構成したり改善したりする 3：教師間で情報共有し、幼児が環境マップの作成にかかわることができるように環境を構成する 2：幼児が興味をもつことができるように、環境マップを話題に取り上げたり、身近な場に掲示したりする 1：環境マップの作成することを幼児に伝え、一緒に取り組む	2.9	4：幼児が興味をもち、主体的に作成に参加し完成させることができた 3：8割程度できた 2：5割程度できた 1：できなかった	2.2	B	・自然環境マップの完成像が教員間で十分に共有されていなかったため、中間評価の際に再協議し、共通理解を図り取り組んだ。 ・取り組み始めは、幼児は園庭を中心に自分が見つけた自然物を教師に伝えたり、絵をかいて地図に示したりしてきたが、マップをプレイルームに掲示していたこともあり、幼児にとって身近なものにならなかった。 ・中間評価後、各学級に環境マップの縮小版を作成して掲示し、幼児の興味の継続につなげた。また、園庭で見つけた自然物のイラストや写真を準備し、学年を問わず、だれが見てもわかりやすいマップをめざした。 ・季節により幼児の興味の継続に至らなかった。	・幼児の興味関心を引き出し、主体的に作成にかかわる姿をめざして、環境の構成や教師の援助を再検討する ・完成後の活用方法を模索する